

チュートリアル課題 ズキズキ チカチカ バタバタ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-07-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 東京女子医科大学 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032920

2017年度 Segment. 7

課題 No.3

課題名：ズキズキ チカチカ バタバタ

課題作成者：産婦人科学
母子総合医療センター

金野 潤
増本 健一



無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。

シート1

妊娠中である美穂さんは、妊娠30週ころから頭痛を自覚していた。自然と軽快するため様子を見ていましたが、妊娠31週ころからは目の前がチカチカとするようになってきました。単身赴任中の夫へ電話で相談したところ「病院へ行ってみたら」と受診を促されました。

医師 「今日はどうされましたか」

美穂さん 「最近頭痛が頻繁にありまして」

医師 「どのような頭痛ですか」

美穂さん 「ズキズキするような痛みです。あと最近目は目の前がチカチカするようにもなってきました」

医師 「心配ですね。少し調べてみましょう」

シート2

医師 「検査結果から今日すぐに入院が必要です。」

美穂さん 「え、入院ですか。上に子供がいて…
夫が単身赴任中で預ける人がいないんです。
都合をつけますので、明日ではダメですか。」

医師 「急な変化もありますので、できるだけ早い入院がいいです」

美穂さん 「そうですか…。母に連絡してみます。」

子供は、祖母が面倒をみてくれることとなり、美穂さんは入院となった。

病棟医 「赤ちゃんの評価をしてみましょう。」

美穂さん 「赤ちゃんは大丈夫ですか？」

シート3

美穂さんは、緊急で帝王切開が行われ出産しました。

在胎期間は31週5日、出生体重は1290g、身長は41.0cmの男児でした。体重は在胎期間にしては小さめでした。出生後1分後、5分後の赤ちゃんの状態はそれぞれ以下の通りでした。

1分後：呼吸はありましたが、泣いてはいませんでした。心拍数は80回/分、手足は少し曲げていました。口腔内と鼻腔内を吸引したとき顔をしかめました。また、全身が紫色でした。分娩に立ちあつた新生児科医師はただちに蘇生を開始し、泣き声が弱いので酸素投与を行いました。

5分後：心拍数は150回/分、手足はバタバタさせていました。口腔内を吸引するとせき込みました。しかし全身は紫色のまま、泣き声が強くないので気管挿管が行われました。

夜、美穂さんは駆け付けた夫とようやく面会できました。

夫 「大丈夫か」
美穂さん 「1日で入院、帝王切開といろいろありすぎて混乱したわ。
赤ちゃんは大丈夫かしら」

シート4

赤ちゃんは出生後すぐにNICUに入院になりました。夫婦が揃ったところで新生児科医師から説明がありました。

医師 「ご出産おめでとうございます。赤ちゃんは予定日より随分早く、体重も小さく生まれました。肺の未熟性が強いので、人工呼吸器と薬による治療を開始しました。」

赤ちゃんは、口にチューブが挿入されていて、機械に繋がれていました。心拍数 165回/分、血圧 52/20 mmHg、呼吸数 70回/分、体温 37.2℃、SpO2 94%で、眠っているようでした。

医師 「出生後しばらくは赤ちゃんにとって不安定な時期なので、心不全、出血、感染症などのリスクがあります。今のところ、重篤な合併症はなさそうです。」

美穂さんは、思っていたよりも赤ちゃんが元気でほっとしましたが、重篤な合併症が起きてしまったら将来どうなるのか不安になりました。

シート5

出生後翌々日（日齢2）に美穂さんが面会に行ったとき、赤ちゃんは青い光を浴びていました。

医師 「皮膚の黄色味が強くなったので治療を始めています。心不全の原因となる血管は自然に閉じてきましたので、薬による治療は行わず経過を見ています。全身状態が安定しているので、母乳を始めましょう。」

美穂さんは色々な治療を受けている赤ちゃんの姿を見て申し訳ない気持ちになりましたが、母乳の話聞いて嬉しくなりました。

シート6

幸い、入院経過中に赤ちゃんに重篤な合併症はありませんでした。

美穂さんの赤ちゃんは圭ちゃんと名付けられ、予定日に体重2360gで退院となりました。

美穂さん 「退院は嬉しいけど、圭ちゃんは幼稚園に行ったり、普通の学校に行けるのかしら？」

普段夫は不在で、上の子もいるため、退院後は祖母の助けを借りながら実家で育児を行うことにしました。圭ちゃんに重篤な合併症はありませんでしたが、将来の成長発達が少し心配です。